

魚類の成長と干潟の回復

順調なイシガレイの成長

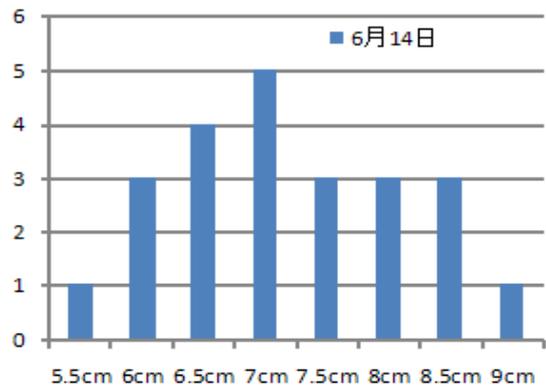
Fig.1は今回採集したイシガレイである。5月12日に採集したものが3cm程度であったのに対し、最大9.5cmの個体を採集することができた。Table.1は採集した稚魚の大きさをグラフにしたものである。およそ1ヶ月の間に体長が2倍ほどに成長している。このデータからは、現在の蒲生干潟の環境がイシガレイの成長に適した状態であることが読み取れる。



Fig.1 イシガレイ稚魚

クサフグの成長測定

この日の調査では、クサフグも数多く採集できた(Table.2)。体長を見るとこれらのほと



んどは未成魚にあたる。この大きさのクサフグはヨコエビやカニ、貝類、多毛類を餌としている。幅広い底生生物を餌とするクサフグの成長は、干潟の底生生物の回復具合を見る指標になるのではないかと考える。今後の調査で多くの個体を採集・測定して行きたい。なお、本レポートをまとめるにあたりマリニア松島水族館の大谷明範様より多くのアドバイスをいただいた。記して感謝申し上げます。

引用文献

座間 彰
 万石浦に出現する魚類の生態学的研究 座間, 1998

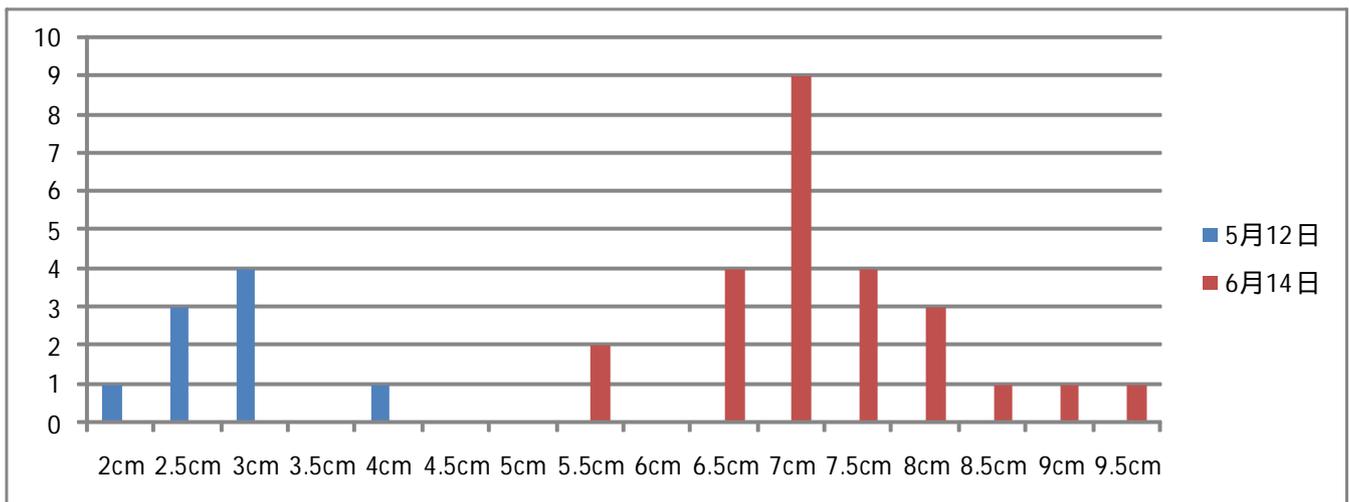


Table.1 イシガレイの体長

(佐藤 賢治)